

平成30年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立糀谷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 指揮者、伴奏者、パートリーダーを中心に、協力して練習に取り組めた。
- 表現においては言語活動の時間を充実させ、自分なりのイメージを簡単な言葉で表現することができた。
- 意欲的に表現の方法を理解することができた。

(2) 課題

- 歌おうとする意欲はあるが、基礎練習の大切さが理解できていない。音を耳で聞いて覚え、歌うことはできるが、楽譜から音楽を読み取り発声の工夫やより美しい表現をしようとするまでは至らない。
- 旋律をとらえることはできるが、自分なりのイメージを膨らませて音楽として表現する力は弱い。
- 鼻濁音や渡り音のことを知識として知っているが、技能として表現できる生徒は少ない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成30年度結果	平成29年度結果	平成28年度結果
第1学年	音楽科の授業に対して、興味や関心はある。知識は学習し始めとしての知識はある。	/	/
第2学年	音楽科の授業に積極的に取り組める生徒と取り組めない生徒の差が大きい。	音楽科の授業に対して、興味や関心はある。知識は学習し始めとしての知識はある。	/
第3学年	授業は前向きに取り組んでいる。知識の定着や技能の向上も進んでいる。	音楽科の授業に積極的に取り組む能力はあるが、知識・技能のレベルは高くない。	音楽科の授業に対して、興味や関心はある。全体的に理解力は低い。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
• 音楽科の授業に対して、興味や関心はあるものの、技能として結びついている生徒は少ない。	• 音楽用語や記号についての知識が少ないため、歌唱の際など根拠をもって表現するまでには至っていない。	• 正しい姿勢や発声の仕方を、身につけている最中である。正しい音程、発声を意識し、丁寧な表現を学習していく。	• 集中して鑑賞することは出来るが、事実を述べることにとどまってしまい、自ら感じたことを言葉にしている生徒は少ない。

② 第2学年

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
・音楽科の授業に対して、興味や関心はあるものの、技能として結びついている生徒は少ない。	・音楽用語や記号についての知識が少ないため、根拠をもって表現するまでには至っていない。	・耳で覚える事は出来るが、読譜の能力にはばらつきがあり、楽譜から表現を読み取るのが苦手。	・集中して鑑賞することは出来るが、一般的なことしか言葉で表現できず、音楽的な用語を用いて、自ら感じたことを言葉で表せている生徒は少ない。

③ 第3学年

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
・音楽科の授業に対して、興味や関心はあるものの、技能として結びついている生徒は少ない。	・音楽用語や記号についての表現は意識しているが、言葉の意味や旋律を感じ取り雰囲気に合わせて表現するまでは至っていない。	・ソプラノやテノールは発声安定しているが、アルトやバスの発声安定しない。 ・読譜に関しては、比較的女声パートは出来ている。男声は苦手。表現力に男女差がある。	・集中して鑑賞をし、音楽的な用語を用いながら、自ら感じたことを言葉で表現できている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
・カセットテープ倒しや、集中カチェックなどの生徒が興味をもちやすい内容からはじめ、少しずつ専門的な内容にシフトしていく。また、合唱コンクールや上級学年に向けて音楽のリーダーを育てる。	・音楽の表現に活かすための音楽記号や用語の意味を身につける。特に共通事項は意味だけでなく、自分なりの表現を考える。 ・リーダーを中心に自分たちで表現を工夫していけるよう、練習を組み立てさせる。	・楽曲にふさわしい発声を身につけるため、授業のはじめの発声練習の際に様々な発声を試し、その楽曲の雰囲気とあっているかを知覚する。 ・一人で楽譜から様々な情報を取り入れられるよう、読譜力を育てる。	・主体的に鑑賞する能力を高めるとともに感じた事を、根拠をもって適切な言葉で表現する。 ・視聴覚教材の精選やワークシートの工夫により、楽曲の背景をとらえやすくする。

(2) 第2学年

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none">積極的に声を出す生徒と、そうでない生徒の差が大きいので、声を出すのが苦手な生徒に声を出せる生徒が声をかけるなど、学び合いを多く取り入れる。	<ul style="list-style-type: none">音楽記号や用語の意味を理解し、表現する。特に共通事項は、自分なりの表現を考え実践する。リーダーを中心に自分たちで表現を工夫していけるよう練習を行う。	<ul style="list-style-type: none">楽曲にふさわしい発声を身につけるため、授業のはじめの発声練習の際に様々な発声を試し、楽曲の雰囲気に合わせている発声を見つける。自分のパートだけでなく、他のパートからも情報を取り入れられるよう、読譜力を育てる。	<ul style="list-style-type: none">主体的に鑑賞する能力を高めるとともに感じた事を、根拠をもって適切な言葉で表現する。視聴覚教材の精選やワークシートの工夫により、楽曲の背景をとらえやすくする。

(3) 第3学年

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none">積極的に取り組んでいる。よりレベルの高い内容を生徒主導で取り組めるよう指導をする。	<ul style="list-style-type: none">音楽表現に必要な記号などの知識はある程度定着しているため、言葉や旋律からも表現を工夫できるよう指導する。	<ul style="list-style-type: none">楽曲にふさわしい発声を身につけるため、授業のはじめの発声練習の際に様々な発声を行い、楽曲にふさわしい発声を見つける。楽譜から得られる歌詞や記号などの情報から、表現をする。	<ul style="list-style-type: none">主体的に鑑賞する能力を高めるとともに感じた事を、根拠をもって適切な言葉で表現する。視聴覚教材の精選やワークシートの工夫により、楽曲の背景をとらえやすくする。